

2013年10月31日

経営工学関連研究者と実務家の皆様へ

日本経営工学会論文誌編集委員会

委員長 鈴木 淳（高崎経済大学）

ゲストエディタ 水山 元（青山学院大学）

谷口忠大（立命館大学）

日本経営工学会論文誌 特集号 和文論文募集

～Call for papers～

近年、ICTの発展に伴い、Wikiや予測市場、クラウドソーシングなど、集合知を活用するための新しいツールが次々と生まれており、それらを経営工学（組織としていかに効率的、効果的に価値を生み出していくか）の分野に応用しようという試みも始まっています。しかしその一方で、知識共有のための社内Wiki、議論のためのWebフォーラムなどのツールを安易に導入したものの、期待した効果が得られていない例も見受けられます。これは、集合知の効果的な活用のためには、単なるツールの導入では不十分であり、それを支える（フォーマル・インフォーマルな）コミュニケーション場のメカニズムを適切に設計する必要があるからです。

そこで、日本経営工学会（JIMA）論文誌編集委員会では、その特集号企画として、「集合知メカニズムとコミュニケーション場の設計と応用」に関わる調査研究、理論・技術、事例研究を幅広く募集いたします。

1. テーマ：集合知メカニズムとコミュニケーション場の設計と応用^注
2. 投稿資格：JIMA 会員でなくても投稿可能です。
3. 投稿締切：2013年 **12月15日【延長しました】**
4. 採択通知：2014年前半期頃を予定
5. 掲載予定号：日本経営工学会論文誌 Vol.65, No.3（2014年10月号）
6. 提出書類：投稿申込書、投稿原稿作成チェックシート、Copyrights transfer and page charge agreement form、正原稿および副原稿（正原稿から著者名と所属、および謝辞を除いたもの）
7. 原稿送付先：下記へご郵送またはメールで送付ください。
学会誌刊行センター 〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16
E-mail k-muro@capi.or.jp（室健次郎）
8. 投稿規程、投稿書式や掲載料などの詳細情報は論文誌編集委員会のHP(<http://www.jimanet.jp/journal/journal-of-jima>)をご参照ください。

注：集合知メカニズムとは、「組織内外の複数の関係者の頭の中に分散している知識や、それらの関係者の認知能力をうまく統合することによって、価値のある情報や知識（知識資産）を生み出す仕組み」のことで、広い意味でのコミュニケーションに支えられています。例えば、需要予測のための仕組みであれば予測分布が、商品企画のための仕組みであれば商品コンセプトが、投資評価のための仕組みであれば投資の意思決定が、それぞれその結果として得られる成果物となります。このように、集合知メカニズムは、（製品などの物理的な資産ではなく）知識資産を、衆知を結集して生み出すための生産システムであるともいえるでしょう。また、それを支えるコミュニケーションには、その過程を通じて関係者の合意形成や相互学習を実現するという機能もあります。

キーワード：ブレインストーミング、ワークショップ、デルファイ法、グループダイナミクス、集団意思決定、合意形成、リスクコミュニケーション、サイエンスコミュニケーション、組織的知識創造、知識マネジメント、議論の視覚化、熟議、ビブリオバトル、ゲーム理論、メカニズムデザイン、市場メカニズム応用、実験経済学、マルチエージェントシステム、記号過程、コミュニケーション支援、ネットワーク科学、メディア論、人間機械系、予測市場、クラウドソーシング、GWAP、CSCW、Wiki、SNS、ソーシャルレコメンデーション、ソーシャルアノテーション、ソーシャルコンピューティング、ソーシャルラーニング、ソーシャルゲーム、オープンイノベーション、など

以上